



# COMPASS

考える・安心

考える部便り No.2

## なぜ子どもたちは指導を受け入れるのか

授業が始まりました。江南小の子どもたちとの出会いはいかがでしたか。私たち教師は毎日学習面でも生活面でも子どもたちに指導をしています。子どもたちがその指導に従っているかどうかは気になりますが、なぜ子どもたちは教師の指導を受け入れるかも私は気になります。接し方や経験年数などが影響していると考えer方は多いと思います。子どもたちは、何らかの教師の「勢力」を感じて、その「勢力」に従って、その教師の指導を受け入れていると考えます。子どもたちが教師の捉える勢力資源は、次の6つの種類があるとされています。

- ① 準拠性：教師に対する好意や尊敬の念、信頼感、ある種のアコガレなど、教師の内面的な人間的魅力にもとづく。
- ② 親近・受容性：教師に対する親近感や、自分を受け入れてくれるという被受容感など、教師の内面的な人間的魅力にもとづく。
- ③ 熟練性：教師の専門に基づく教え方のうまさ、熱心さなど、教師の教育技術の高さと熱意にもとづく。
- ④ 明朗性：教師の性格上の明るさ、かかわることで楽しい気分になることにもとづく。
- ⑤ 正当性：「教師」「先生」という役割や社会的地位にもとづく。
- ⑥ 罰・強制性：教師の指示に従わないと罰せられたり、成績に響いたりするので、それを避けるために教師の指導に従うことにもとづく。

※ この他に、外見性もありますが、今回は含めないことにします。

河村茂雄「教師のためのソーシャル・スキル——子どもとの人間関係を深める技術」(誠信書房, 2002年)

皆さんは、どの勢力資源によって、自分の指導が子どもたちに受け入れられていると思われましたか。子どもたちは、特定の教師に対して上記の6つの勢力資源のどれか一つで捉えているわけではないです。また、同じ教師でも、子どもが違えば、その勢力資源の捉え方も違います。また、小学生は、勢力資源の①から⑤までの教師の魅力と⑥の罰・強制性に統合して捉える傾向があるようです。教師の魅力を子どもたちが強く感じる場合、両者の関係はよくなります。罰・強制性が強いと、両者の関係はあまりよくないことになっていくことは予想できます。そして、小学生の捉え方で最も重要なことは、①や④の教師の人間的な魅力と③の授業の教え方のうまさや熱意の両者を分けず、一体に捉えていることです。教師は、子どもたちが従っている要因について考え続けないと、無意識に人間的な魅力に偏った授業づくりになってしまう可能性もあります。人間的な魅力を高めることを軽視しているわけではないです。その魅力も大事ですが、自分の熟練性について考える大切さも皆さんと今後共有していきたいです。